



# Red Hat Subscription Management 2022

## Red Hat Subscription Management での通知と レポートの使用

システム通知、インフラストラクチャーレポート、およびその他のサブスクリプション情報の表示と対応



## Red Hat Subscription Management 2022 Red Hat Subscription Management での通知とレポートの使用

---

システム通知、インフラストラクチャーレポート、およびその他のサブスクリプション情報の表示と対応

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

## 法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Using\_Notifications\_and\_Reports\_with\_Red\_Hat\_Subscription\_Management.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

このガイドでは、一般的なレポートと通知について説明し、サブスクリプションが不足または期限切れになった場合の対応方法を説明します。

## 目次

<b>第1章 サブスクリプションのステータス、通知、およびコンプライアンス</b> .....	<b>3</b>
1.1. サブスクリプション、製品、およびシステムとの相互作用	4
1.2. サブスクリプションのカウント	4
1.3. 有効期限と有効範囲	5
1.4. サブスクリプションの状態	6
1.5. 通知とメッセージ	8
1.6. サブスクリプションの状態とコンプライアンス	8
<b>第2章 ステータスと通知</b> .....	<b>10</b>
2.1. RED HAT SUBSCRIPTION MANAGER	10
2.1.1. 状態	10
2.1.2. サブスクリプションの有効期限の通知	11
2.2. RED HAT カスタマーポータルでのサブスクリプション管理	12
2.2.1. サブスクリプションの使用率	13
2.2.2. インベントリ	14
2.2.3. Systems	15
<b>第3章 通知および変更されたステータスへの対応</b> .....	<b>16</b>
3.1. サブスクリプションの自動割り当てと更新	16
3.1.1. サービスレベルとオペレーティングシステムのバージョン	16
3.1.2. サービスレベル	16
3.1.3. 優先 OS バージョン	17
3.1.4. Red Hat Subscription Management GUI を使用したサービスレベルの表示	17
3.1.5. Red Hat Subscription Management GUI を使用したサービスレベルと OS バージョンの設定	18
3.1.6. Red Hat Subscription Management GUI を使用して OS バージョン設定を削除する	19
3.1.7. コマンドラインでのサービスレベルの設定	20
3.1.7.1. サービスレベルの表示	20
3.1.7.2. サービスレベルの変更	21
3.1.7.3. サービスレベルによるサブスクリプションの自動割り当て	21
3.1.7.4. 登録時のオペレーティングシステムリリースの設定	22
3.1.8. コマンドラインを使用したオペレーティングシステムのリリース設定の設定	22
3.1.8.1. OS 設定の表示	22
3.1.8.2. OS プリファレンスの設定	23
3.1.8.3. コマンドラインで OS 設定を削除する	23
3.1.9. Subscription Manager の通知に応じた自動割り当て	23
3.1.10. システム登録時の自動割り当て	23
3.1.11. 登録後の自動割り当て	23
3.2. RED HAT SUBSCRIPTION MANAGEMENT カスタマーポータルのサブスクリプションの更新	24
3.2.1. 優先サービスレベルサポート	24
3.2.2. オペレーティングシステムのリリース設定の表示	25
3.2.3. サブスクリプションの自動アタッチ	25
3.2.4. システムでの自動接続の有効化	25
3.2.5. サブスクリプションと過剰割り当て	26
3.2.6. サブスクリプションの使用状況を表示する	27
3.2.7. システム使用率の表示	27
<b>第4章 エラータ通知の管理</b> .....	<b>28</b>
4.1. 登録済みシステムの RED HAT SUBSCRIPTION MANAGEMENT エラータ通知	28
4.2. エラータ通知の設定	28
4.3. ローカルシステム用の RED HAT SUBSCRIPTION MANAGEMENT パッケージプロファイル	28
<b>付録A 更新履歴</b> .....	<b>29</b>



## 第1章 サブスクリプションのステータス、通知、およびコンプライアンス

IT 管理者は、管理するシステムのインベントリーを管理および維持する必要があります。システムインベントリーには、ハードウェアと、ハードウェアにインストールされているソフトウェアの両方が含まれます。ソフトウェアは、多くの場合、サブスクリプションベースでインストールされます。ソフトウェアおよび関連するサブスクリプションの正確なインベントリーを維持するには、主要な情報を追跡する必要があります。

- インストールされるもの
- インストール場所
- アクティブなコピーの数
- サブスクリプションの有効期限

IT 管理者として、ソフトウェアの正確なインベントリーを提供する責任があります。たとえば、企業は、米国の Sarbanes-Oxley 規制または Payment Card Industry Data Security Standard (PCI-DSS) に準拠するために、自社のソフトウェア資産に関する正確な情報を維持および提供する必要があります。ソフトウェア資産に関するすべての情報を収集して維持することは、**ソフトウェアライセンス管理**と呼ばれることがよくあります。Red Hat サブスクリプションモデルを使用する場合は、**サブスクリプション管理**と呼ばれます。

サブスクリプション管理は、IT 環境内のシステムと、Red Hat を通じて取得するソフトウェア製品との間の関係を識別および作成する方法です。サブスクリプションを効果的に管理することで、次の目標を達成できます。

- ソフトウェアのサブスクリプションと有効期限を追跡することで、規制へのコンプライアンスを維持します。
- 最新の展開情報を維持することで、IT 監査を簡素化します。
- サブスクリプション、システム、および使用状況の関係を明確にすることで、サブスクリプションをより効果的に割り当てます。
- サブスクリプションの不足と過剰を積極的に管理することで、コストを削減します。

サブスクリプションはライフサイクルに従います。

- アカウントが製品のサブスクリプションを購入すると、Red Hat コンテンツ配信ネットワーク、エラータとパッチ、アップグレード、およびサポートにアクセスできるようになります。

サブスクリプションは、一定期間使用可能または**有効**であり、特定の回数 (**数量**) 使用できます。

- サブスクリプション管理サービスのインベントリーにサーバーが追加または**登録**されます。システムが追加されると、システムに関する属性を定義するファクトのリストと、インストールされている製品とそのバージョンをリストするプロファイルがあります。
- サブスクリプションはシステムに**割り当てられている**ため、システムはその製品のサービスとコンテンツをサポートする資格があります。

サブスクリプションは、管理者が手動で割り当てることも、システム属性とインストール済み製品に最適なサブスクリプションに基づいて、サブスクリプションプロセスによって自動的に割り当てることもできます。

- サブスクリプションの有効期間が終了するか、新しい製品が追加されると、新しいサブスクリプションをシステムに割り当てて、適用範囲を維持する必要があります。

## 1.1. サブスクリプション、製品、およびシステムとの相互作用

システム上の製品には、相互に関係、依存関係、競合があります。同様に、サブスクリプションには、それが表すソフトウェアの関係と同様の関係があります。一部のサブスクリプションは仮想ゲストを許可し、一部は他のサブスクリプションを必要とし、一部は他のサブスクリプションと競合します。

サブスクリプションは、インストールされた製品間の関係、およびそれらの製品がインストールされているシステムを定義します。サブスクリプションは、システム間の関係と、環境内でのシステムの対話方法も定義します。この相互作用は、サブスクリプションが物理ホストと仮想ゲストに対して異なる関係を定義できる仮想環境で明らかです。さらに、システムは、データセンターやクラウドインフラストラクチャーなど、他の方法で対話できます。サブスクリプションは、これらのメタ関係の一部です。

サブスクリプションを使用してこれらのさまざまな関係を定義すると、製品とシステムの対話方法に柔軟性がもたらされます。

- 製品の1つの数量を1つのシステムに関連付けます。これは最も一般的な関係です。
- 特定の別の製品と同じシステムにインストールできないように、1つの製品を制限します。
- システムを一貫したサービスレベルに保ちます。各サブスクリプションには、サービスレベルの定義が含まれています。サブスクリプションクライアントは、最初に同じサービスレベルのサブスクリプションを割り当てようとします。これにより、システムに一貫したサポートレベルが提供されます。
- 仮想ゲストがホストから一部のサブスクリプションを継承できるようにします。
- 一部のホストは、データセンターの展開に無制限のゲストを持つことができます。
- 1つのサブスクリプションを複数のシステムに分割できるようにします。これは Red Hat Cloud Infrastructure のように機能します。Red Hat Cloud Infrastructure は、Red Hat Enterprise Linux、Red Hat OpenStack、Red Hat Virtualization、CloudForms の4つの製品が実際に対象となります。これらの製品にはそれぞれ、スタックを作成するために異なるシステムで使用できる独自のサブスクリプションがあります。
- システムをカバーするために、同じタイプのサブスクリプションをスタックまたは結合します。

## 1.2. サブスクリプションのカウント

サブスクリプションサービスインベントリの一部は、購入したサブスクリプションのサブスクリプションとサブスクリプションの可用性を追跡します。

サブスクリプションの購入には、サブスクリプションを使用できる回数、または資格が含まれます。サブスクリプションサービスは、システムが物理的か仮想的か、およびシステムにあるソケットの数を調べます。

- 通常、物理システムはエンタイトルメントを2つ使用しますが、仮想システムは1つ使用しません。
- システムのソケット2個に対して、エンタイトルメントが1つ必要です。



もう1つのカウントは、コアの数です。ソケット、コア、またはその他のシステム要素のいずれであるかは、特定のサブスクリプションによって異なります。サブスクリプションによって直接カバーされるシステムまたはソフトウェアの各要素は、**インスタンス**と呼ばれます。

たとえば、Red Hat Enterprise Linux の1つのサブスクリプションは2つのソケットをカバーします。製品は Red Hat Enterprise Linux で、システム属性は物理ソケットペアです。**ソケットペア**は1つのインスタンスで設定されます。したがって、8ソケットシステム(4ペア)では、1ソケットペアよりも多くのサブスクリプションが必要になります。

このソケットペアの配置は、すべてのサブスクリプションに適用されるわけではありません。Red Hat Subscription Management は、他のタイプのサブスクリプション関係を追跡します。

- 1つのサブスクリプションで複数の製品 (Red Hat Cloud Infrastructure)
- 継承可能なサブスクリプション
- 無制限の仮想ゲストを許可するデータセンターサブスクリプション (ホストのみが特定のサブスクリプションを必要とする)

物理システムと仮想システムの両方で同じサブスクリプションが使用されますが、サブスクリプションが物理システムであるか仮想システムであるかによって、使用される数量が異なる場合があります。

物理システム上のソケットペアごとに1つのサブスクリプション数量が使用されます。仮想ゲストは、ソケットペアではなく、単一のソケットとしてカウントされます。したがって、サブスクリプション数量の半分です。仮想ゲストがインベントリに追加されると、利用可能なサブスクリプションの総数が2倍になります。これにより、仮想ゲストが半分の数量しか取得していない場合でも、サブスクリプション数を整数のままにすることができます。

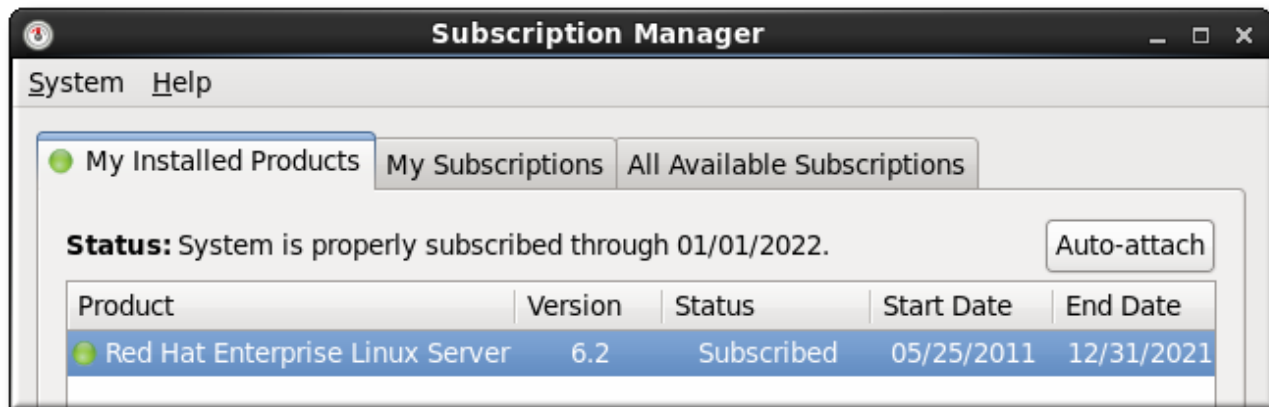
サブスクリプションのカウント方法が異なるため、サブスクリプション管理ツールに表示される使用率のカウントは、購入したサブスクリプションの実際の数とわずかに異なる場合があります。

### 1.3. 有効期限と有効範囲

サブスクリプションは、**有効期間**と呼ばれる限られた期間のみ有効です。サブスクリプションを購入すると、有効期間の開始日と終了日が設定されます。

システムには、複数のサブスクリプションをアタッチすることができます。各製品にはそれぞれのサブスクリプションが必要です。さらに、一部の製品では、製品を完全にカバーするために複数のサブスクリプションが必要になる場合があります。カバレッジは、システムが物理か仮想か、およびシステムにあるソケットの数に基づいています。

**root** ユーザーとして **subscription-manager-gui** コマンドを実行してサブスクリプション管理アプリケーションを使用すると、**My Installed Products** タブにシステム全体のサブスクリプションステータスが表示されます。また、最初のサブスクリプションの有効期限が切れる日付も表示されます。



たとえば、4月17日に期限が切れる製品サブスクリプションがあり、他のすべての製品サブスクリプションが10月1日まで有効である場合、**Status** サマリーには、サブスクリプションが最も近い有効期限である4月17日まで有効であることが示されます。

サブスクリプションはキューに並べることができます。たとえば、ソケット数をカバーするために2つの2ソケットサブスクリプションを使用する4ソケットシステムがあるとします。ただし、システムには実際には3つのサブスクリプションが関連付けられています。

- 2ソケットサブスクリプション A の有効期限は 2012 年 4 月 1 日です。
- 2ソケットサブスクリプション B の有効期限は 2013 年 7 月 31 日です。
- 2ソケットのサブスクリプション C は、2012 年 3 月 1 日に開始し、2014 年 4 月 1 日に期限切れになります。

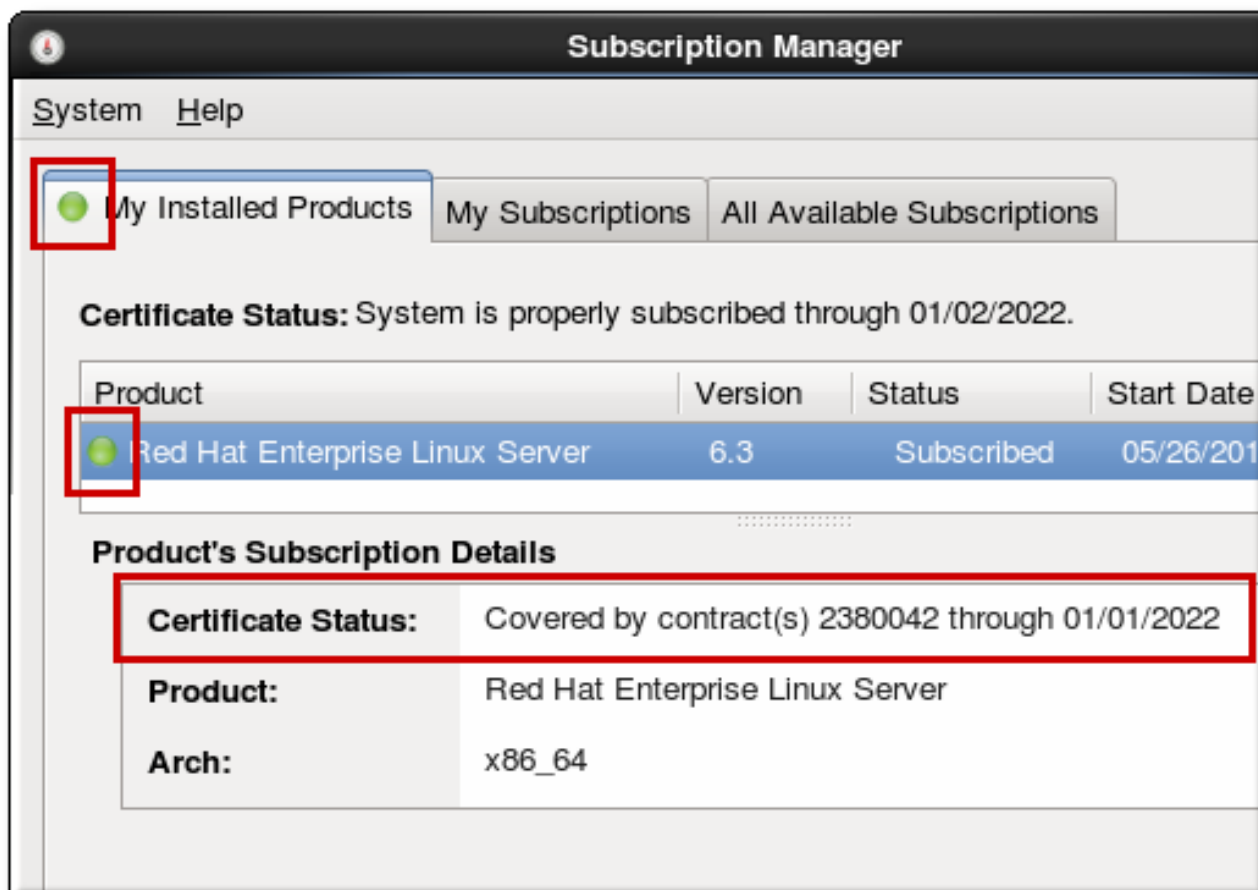
このシステムは 2013 年 7 月 31 日まで有効です。サブスクリプション C は、有効期限が切れたときにサブスクリプション A を置き換えるために既にキューに入れられているためです。

## 1.4. サブスクリプションの状態

すべてのサブスクリプション管理ツールは、システムにインストールされている製品の有効なサブスクリプションへの変更を示すログと UI メッセージを提供します。

製品のサブスクリプションステータスは次のように色分けされています。


- **緑色**は、インストールされているすべての製品に対してすべてのサブスクリプションが有効であることを意味します。
- **黄色**は、一部の製品に注意が必要であることを意味します。たとえば、必要なサブスクリプションの一部が有効ではないが、更新がまだ有効であるなどです。
- **赤**は、サブスクリプションの更新が無効になっており、新しいサブスクリプションが必要であることを意味します。



コマンドラインツールも、マシンのそのステータスを表示します。緑、黄色、および赤のコードは、それぞれ `subscribed`、`partially subscribed`、`expired`、および `not subscribed` というテキストのステータスメッセージに変換されます。

```
[root@localhost ~]# subscription-manager list
+-----+
  Installed Product Status
+-----+
Product Name:  Red Hat Enterprise Linux Server
Product ID:    69
Version:      7.6
Arch:        x86_64
Status:       Subscribed
Status Details:
Starts:       04/24/2013
Ends:         01/01/2022
```

表1.1 ステータスラベルとアイコン

アイコン	メッセージ	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Valid</li> <li>* Subscribed</li> <li>* Sufficient</li> </ul>	インストールされたすべての製品には有効なサブスクリプションが割り当てられており、システムは完全にカバーされています。

アイコン	メッセージ	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Insufficient</li> <li>* Partially subscribed</li> </ul>	一部のインストール済み製品には、サブスクリプションがないか、適切な数のサブスクリプションが割り当てられていません。更新とサポートポリシーは引き続き有効です。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Invalid</li> <li>* Not subscribed</li> </ul>	システムまたはインストール済み製品にサブスクリプションは割り当てられていません。更新が無効になり、サポートの対応に影響が出る可能性があります。

## 1.5. 通知とメッセージ

ローカルシステム上の Red Hat Subscription Management の一部は **rhsmcertd** サービスです。これは、サブスクリプションサービスと対話して新しいサブスクリプションを確認し、ローカルシステムにアタッチされたサブスクリプションの有効期限を監視し、必要なサブスクリプションのインストール済み製品を追跡します。

**rhsmcertd** サービスは、ローカルシステムのサブスクリプションが期限切れまたは不十分であるという警告を発行できます。**rhsmcertd** サービスはサブスクリプションサービスと対話するため、カスタマーポータルでの Red Hat Subscription Management などのサブスクリプション管理ダッシュボードには、アカウントに登録されているすべてのシステムのステータスと個々のシステムのステータスが表示されます。

サブスクリプションコンプライアンスはシステムレベルで管理されるため、Red Hat Subscription Management のメッセージと通知は、システムのサブスクリプションステータスの変化に対応するために非常に重要です。全体的なインフラストラクチャーの追跡、リソース計画、および規制または標準への準拠について、高レベルの概要は、監査、購入、計画など、すべてのサブスクリプションコンプライアンスアクティビティに役立ちます。

## 1.6. サブスクリプションの状態とコンプライアンス

システムのサブスクリプションが不十分または期限切れになっている場合、それを修復する方法は、システムのサブスクリプションを更新することです。これは手動で行うこともできますが、最も効率的な管理は、システムの自動割り当てを有効にして、システムのサブスクリプションステータスが変化したときにサブスクリプションが自動的に割り当て、または更新されるようにすることです。

自動割り当ては **rhsmcertd** サービスの一部です。デフォルト設定では、**rhsmcertd** サービスは 4 時間ごとに以下をチェックします。

- 現在インストールされている製品のステータス
- 現在接続されているアクティブなサブスクリプション
- 利用可能なサブスクリプション

自動割り当てが有効になっている場合、**rhsmcertd** サービスは最適なサブスクリプションを自動的に使用します。

非同期自動割り当て操作を実行することもできます。ローカルシステムでは、コマンドラインインターフェイス (CLI) を介して Red Hat Subscription Management ユーティリティを使用してこれを行うことができます。マニュアルページを表示するには、**subscription-manager man** コマンドを使用します。

## 第2章 ステータスと通知

Red Hat Subscription Management は、サブスクリプションのステータスと通知を表示するための2つの主要なツールを提供します。

- Red Hat Subscription Manager は、システム情報を表示するためにローカルシステムから実行されます。
- Red Hat Customer Portal は、登録済みサブスクリプション用の Web ベースのインターフェイスを提供します。

### 2.1. RED HAT SUBSCRIPTION MANAGER

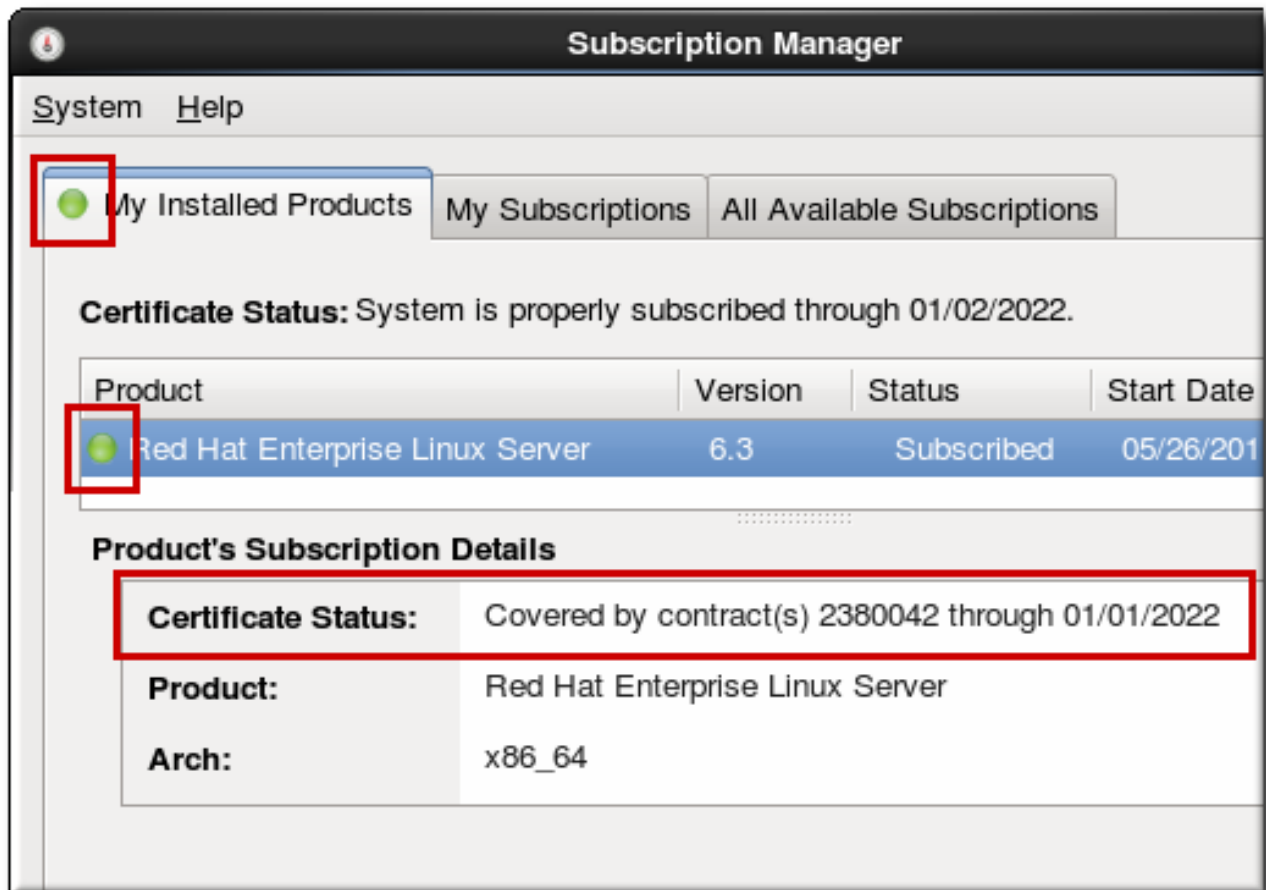
Red Hat Subscription Management は、インストールされた製品、インストールされた各製品のサブスクリプションステータス、および利用可能なサブスクリプションに関するシステムレベルの情報を提供します。CLI を使用して Red Hat Subscription Management 管理 コマンドを発行するか、Red Hat Subscription Management GUI を呼び出すことができます。

#### 2.1.1. 状態

すべてのサブスクリプション管理ツールは、システムにインストールされている製品の有効なサブスクリプションへの変更を示すログメッセージと UI メッセージを提供します。

製品のサブスクリプションステータスは次のように色分けされています。

- **緑色**は、インストールされているすべての製品に対してすべてのサブスクリプションが有効であることを意味します。
- **黄色**は、一部の製品に注意が必要であることを意味します。たとえば、必要なサブスクリプションの一部が有効ではないが、更新がまだ有効であるなどです。
- **赤**は、サブスクリプションの更新が無効になっており、新しいサブスクリプションが必要であることを意味します。



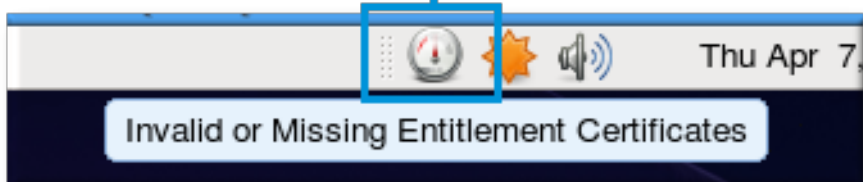
コマンドラインツールも、マシンのそのステータスを表示します。緑、黄色、および赤のコードは、それぞれ `subscribed`、`partially subscribed`、`expired`、および `not subscribed` というテキストのステータスメッセージに変換されます。

```
[root@localhost ~]# subscription-manager list
+-----+
  Installed Product Status
+-----+
Product Name:  Red Hat Enterprise Linux Server
Product ID:    69
Version:      7.6
Arch:         x86_64
Status:       Subscribed
Status Details:
Starts:       04/24/2013
Ends:         01/01/2022
```

### 2.1.2. サブスクリプションの有効期限の通知

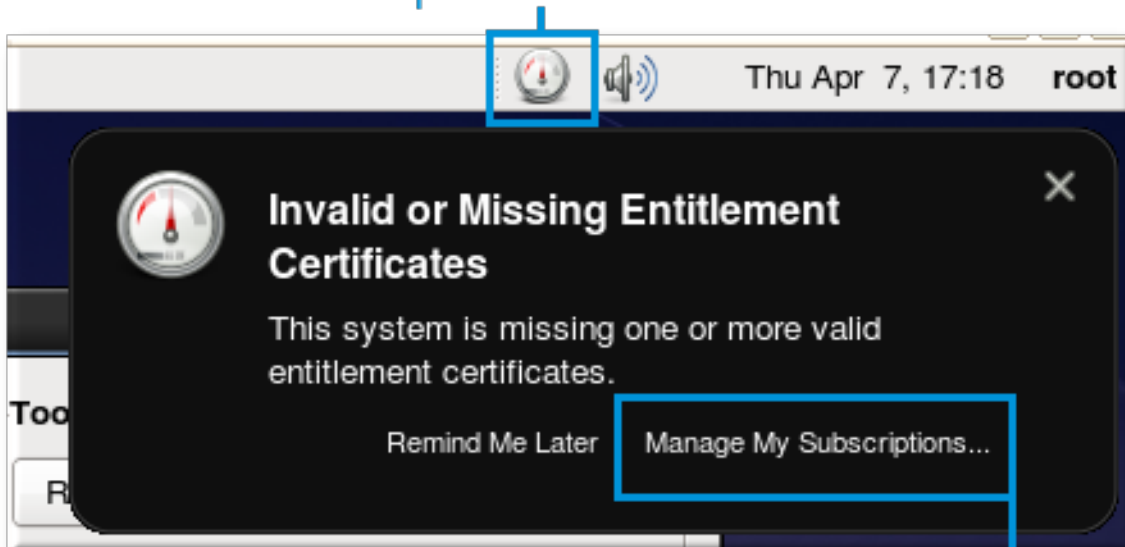
サブスクリプションの変更に関する警告がある場合は常に、サブスクリプションマネージャー GUI のトップメニューバーに通知アイコンが表示されます。

## subscription notification icon



インストールされた製品のサブスクリプションの有効期限が近づくと、Subscription Manager デーモンが通知を表示します。インストールされた製品に有効なサブスクリプション証明書がない場合、同様のメッセージが表示されます。これは、インストールされた製品をカバーするサブスクリプションが割り当てられていないか、インストールされた製品がサブスクリプションの有効期限を過ぎていることを意味します。通知ウィンドウで **Manage My Subscriptions...** をクリックし、Red Hat Subscription Manager GUI を開いてサブスクリプションを表示し、更新できます。

## subscription notification icon

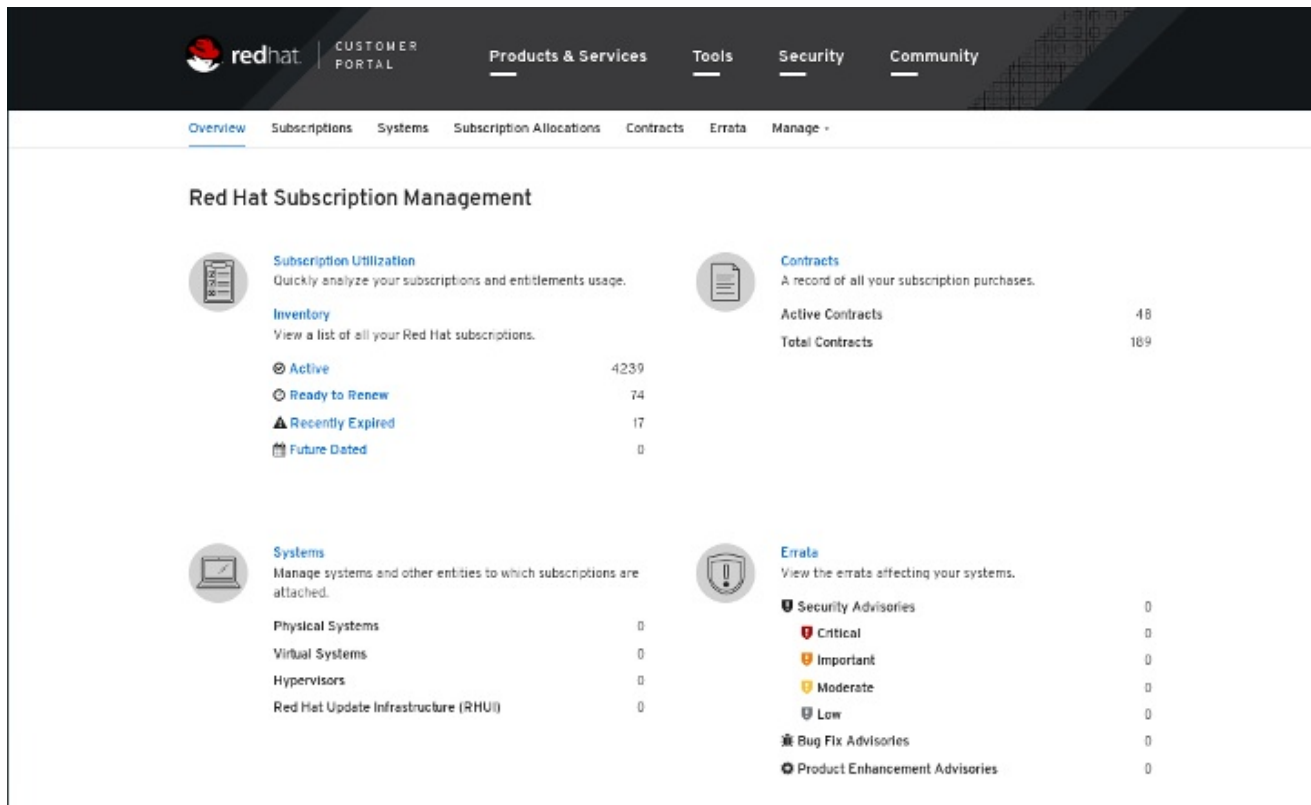


## launch subscription manager

## 2.2. RED HAT カスタマーポータルでのサブスクリプション管理

Red Hat Customer Portal を使用して **My Subscriptions** リンクに移動すると、サブスクリプションを表示および管理できます。My Subscriptions リンクを開くと、Red Hat Subscription Management ページが表示されます。このページの **Overview** タブには、サブスクリプションの概要が表示されます。その他の詳細は、Red Hat Subscription Management ページのリンクとタブから入手できます。





**Red Hat Subscription Management**

**Subscription Utilization**  
Quickly analyze your subscriptions and entitlements usage.

**Inventory**  
View a list of all your Red Hat subscriptions.

Active	4239
Ready to Renew	74
Recently Expired	17
Future Dated	0

**Contracts**  
A record of all your subscription purchases.

Active Contracts	48
Total Contracts	189

**Systems**  
Manage systems and other entities to which subscriptions are attached.

Physical Systems	0
Virtual Systems	0
Hypervisors	0
Red Hat Update Infrastructure (RHUI)	0

**Errata**  
View the errata affecting your systems.

Security Advisories	0
Critical	0
Important	0
Moderate	0
Low	0
Bug Fix Advisories	0
Product Enhancement Advisories	0

### 2.2.1. サブスクリプションの使用率

Red Hat Subscription Management ページの **Subscription Utilization** リンクには、すべてのアクティブなサブスクリプションとエンタイトルメントの使用状況に関する製品概要情報が表示されます。次のサブスクリプションステータスカテゴリをクリックして、追加情報を表示できます。

- Active
- Ready to Renew
- Recently Expired
- Future Dated

CSV スプレッドシート形式で情報をダウンロードできます。

The screenshot shows the Red Hat Customer Portal interface. At the top, there are navigation tabs: Overview, Subscriptions (selected), Systems, Subscription Allocations, Contracts, Errata, and Manage. Below the navigation, the page title is "Subscription Utilization". A sub-header reads "Below is a product summary for all active subscriptions and entitlements usage". To the right of this text is a "↓ CSV" button. Below the sub-header are five summary cards: "4239 Active", "74 Ready to Renew", "17 Recently Expired", "0 Future Dated", and "View All Subscriptions". Below these cards is a section titled "CloudForms" containing a table with the following data:

Product	Quantity	Entitlement Usage	Next Renewal
CloudForms Employee Subscription	505	95%	2019-05-23
Red Hat CloudForms for Providers	5	98%	2021-12-31

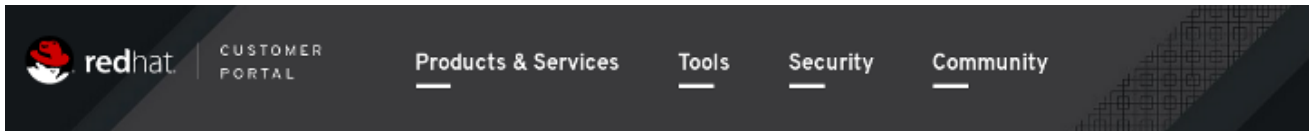
## 2.2.2. インベントリ

Red Hat Subscription Management ページの **Inventory** リンクには、アカウントに関連付けられているすべての Red Hat サブスクリプションが表示されます。有用な情報は次のとおりです。

- サブスクリプション番号
- サブスクリプション名 (製品名)
- 契約番号
- 数量
- 開始日、終了日、およびステータス

在庫ビューを選択して、製品のステータスに応じて特定のビューを提供できます。

CSV スプレッドシート形式で情報をダウンロードできます。



Overview [Subscriptions](#) Systems Subscription Allocations Contracts Errata Manage ▾

[« Return to Subscription Utilization](#)

## Inventory

Filter by Subscription (Number, Name, SKU) or Contract Number

Active

Ready to Renew

Recently Expired

Future Dated

All

↓ .CSV

Subscription Number	Subscription Name	Contract Number	Quantity	Start Date	End Date	Status
6079271	30 Day Red Hat Enterprise Linux Server Self-Supported Evaluation	11893118	1	2019-03-25	2019-04-23	Expiring in < 30 days <a href="#">Renew</a>
6082170	30 Day Self-Supported Red Hat OpenShift Container Platform, 2-Core Evaluation	11893973	1	2019-03-26	2019-04-24	Expiring in < 30 days <a href="#">Renew</a>
6028510	90 Day Supported Red Hat Cloud Suite Evaluation	11879068	50	2019-01-30	2019-04-29	Expiring in < 30 days <a href="#">Renew</a>
6033945	60 Day Supported Red Hat Virtualization (2-socket) Evaluation	11880832	1	2019-03-06	2019-05-04	Expiring in < 30 days <a href="#">Renew</a>
6039778	30 Day Self-Supported Red Hat OpenShift Container Platform, 2-Core Evaluation	11882057	1	2019-04-06	2019-05-05	Expiring in < 30 days <a href="#">Renew</a>

### 2.2.3. Systems

Red Hat Subscription Management ページの **Systems** リンクには、アカウントに関連付けられているすべてのシステムが表示されます。次のタイプのシステムに関する情報が表示されます。

- 物理システム
- 仮想システム
- ハイパーバイザー



Overview Subscriptions [Systems](#) Subscription Allocations Contracts Errata Manage ▾

## Systems

Below is a list of systems for this account.

Filter by Name, UUID, or Cloud Provider

[More Filters](#) ▾

[Reset Filters](#)

New

↓ .CSV

<input type="checkbox"/>	Name	Type	Last Check in	Errata
There are no systems on this account.				

Show  entries

Showing 0 to 0 of 0 entries

First

Previous

Next

Last

## 第3章 通知および変更されたステータスへの対応

### 3.1. サブスクリプションの自動割り当てと更新

Red Hat Enterprise Linux システムは、システムに接続されているサブスクリプションをモニターするサービス **rhsmcertd** を実行します。**rhsmcertd** サービスは、インストールされた製品のサブスクリプションを追跡し、Red Hat Subscription Management レポートで提供される情報を収集します。たとえば、インストール済みの製品サブスクリプションが有効期限に近づいた場合、更新された場合、または削除された場合などです。

インストールされた製品に有効なサブスクリプションがない場合、Red Hat Subscription Management は、システムにインストールされた製品をカバーするために最適なサブスクリプションを自動的にアタッチしようとします。割り当ては自動的に行われるため、管理者の介入は必要ありません。このメカニズムは、登録時のシステムの自動割り当てに似ています。この自動プロセスにより、次のような動的な環境でサブスクリプションが更新されたままになります。

- 新しい製品がインストールされたとき
- サブスクリプションの有効期限が切れたとき
- サブスクリプションが更新されたとき
- サブスクリプション管理アプリケーションがそのマニフェストを置き換えるとき

自動割り当てはデフォルトで有効になっています。**subscription-manager** コマンドを使用するか、オンラインの Red Hat Subscription Management やサテライトなどのサブスクリプションサービスを使用して、自動アタッチを無効にして再度有効にすることができます。`/etc/rhsm/rhsm.conf` ファイルを変更して、**rhsmcertd** サービスが自動接続チェックを実行する間隔を変更できます。

#### 3.1.1. サービスレベルとオペレーティングシステムのバージョン

サブスクリプションの更新と自動アタッチに Red Hat Subscription Management を使用する場合、追加情報を設定できます。

- サービスレベル。
- オペレーティングシステムのマイナーバージョン (XY)。

#### 3.1.2. サービスレベル

インストール済み製品のサブスクリプション契約には、**サービスレベル**が含まれています。サービスレベルは、システムにインストールされている製品に関連付けられており、サポート要件に応じて製品ごとに異なる場合があります。

Red Hat のサービスレベルは、製品契約で定義されています。[プロダクションサポートサービス条件](#)でプロダクションサポートレベルの概要を確認できます。

同じ製品であっても、1つのアカウントで複数のレベルのサポートを利用できます。適切なレベルのサポートが利用できるように、システムのサポートレベルを設定できます。たとえば、実稼働システムにはプレミアムレベル1のサポートがある場合がありますが、開発システムには標準サポート (またはセルフサポート) がある場合があります。



## 注記

デフォルトでは、サブスクリプションとシステムに対して利用可能な最高レベルのサポートが選択されています。

### 3.1.3. 優先 OS バージョン

RHEL のリリースによっては、製品のサブスクリプションと更新がソフトウェアの特定のメジャーおよびマイナーバージョン (X.Y) に依存する場合があります。特定の OS バージョンのシステム設定を設定できます。

表3.1 メジャーバージョンとマイナーバージョンの例

メジャーバージョン	RHEL 6	RHEL 7
マイナーバージョン	RHEL 6.1	RHEL 7.1
	RHEL 6.3	RHEL 7.5

多くの運用 IT 環境は、特定のバージョンのソフトウェアに対して認定を受ける必要があるため、認定への準拠を維持できるように、更新プログラムの OS リリースバージョンを設定することが重要です。これにより、システムで許可される更新またはパッチを制御できます。

リリースバージョンの優先条件を設定すると、最新バージョンのリポジトリを自動的に使用するのではなく、システムのアクセスがそのオペレーティングシステムのバージョンに関連付けられたコンテンツリポジトリに制限されます。

たとえば、優先するオペレーティングシステムのバージョンが 7.5 の場合、7.5 のコンテンツリポジトリは、システムにインストールされているすべての製品とアタッチされているサブスクリプションに対して優先されます。この設定は、他のコンテンツリポジトリが利用可能になった場合でも維持されます。

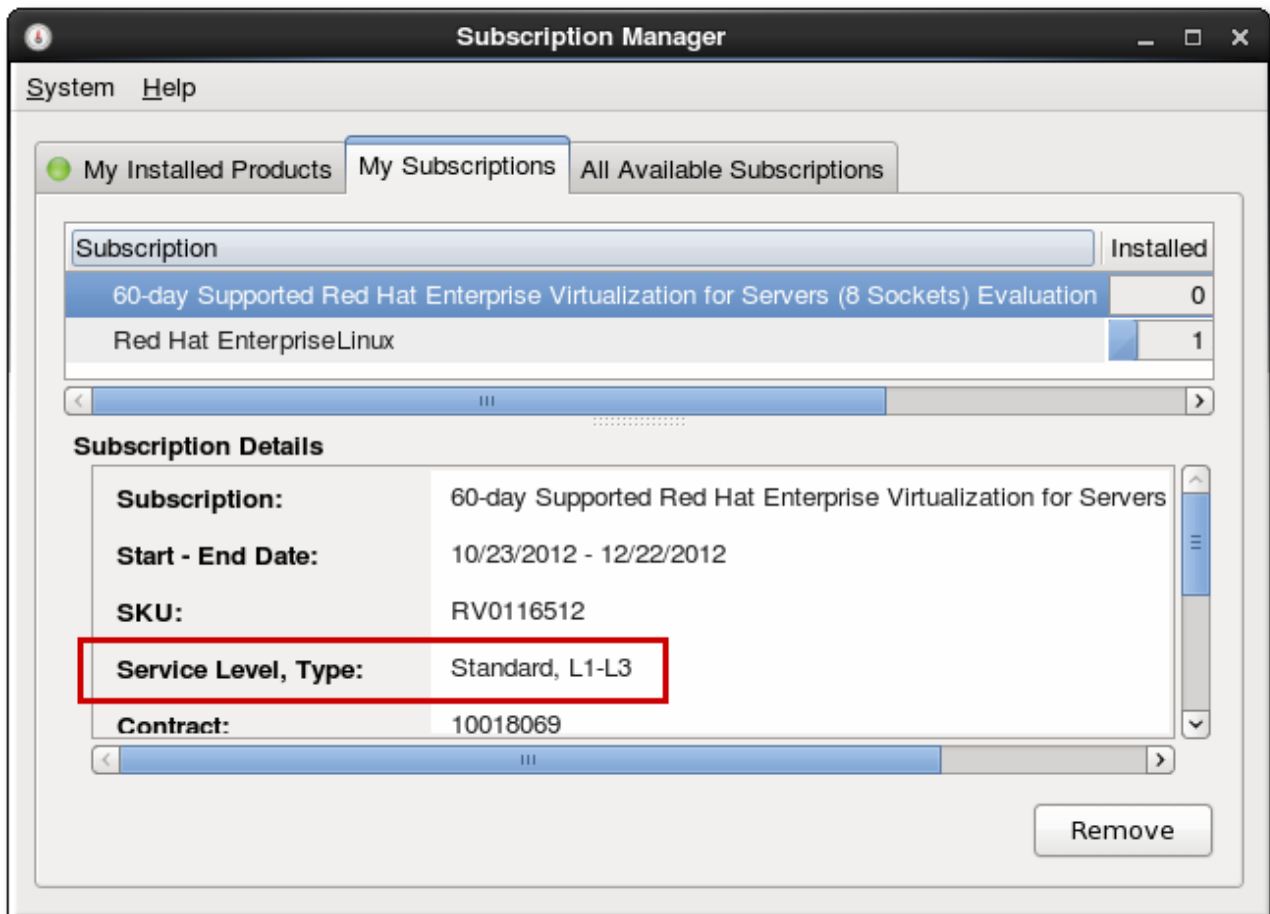
その優先 OS バージョンのパッケージ、更新、およびエラータのみがシステムに使用されます。

### 3.1.4. Red Hat Subscription Management GUI を使用したサービスレベルの表示

Subscription Manager GUI を使用すると、インストールされている各製品のサービスレベルを表示できます。

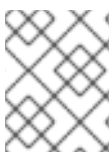
1. Subscription Manager GUI を開きます。
2. **My Subscriptions** タブをクリックします。
3. サブスクリプションリストからインストール済みの製品を選択し、クリックします。
4. サブスクリプションの詳細を表示します。

図3.1 サービス



### 3.1.5. Red Hat Subscription Management GUI を使用したサービスレベルと OS バージョンの設定

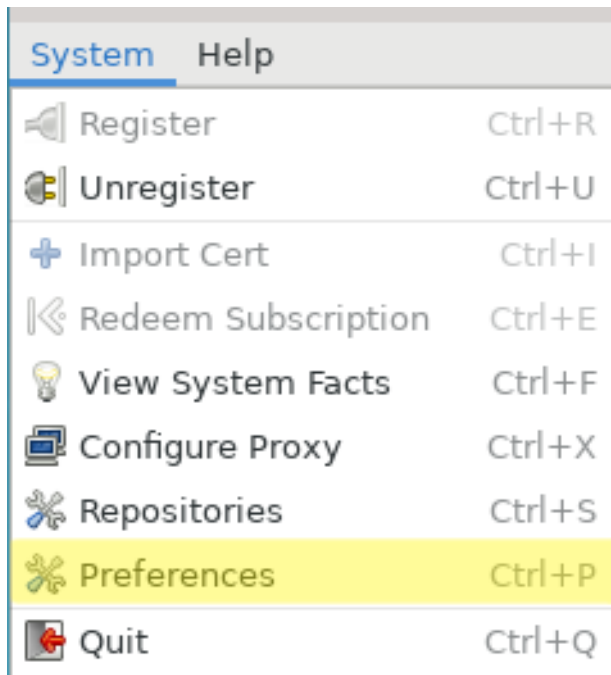
システムにインストールされている各製品のサービスレベルと OS バージョンを設定できます。これは、Subscription Manager の **System > Preferences** メニューから行います。



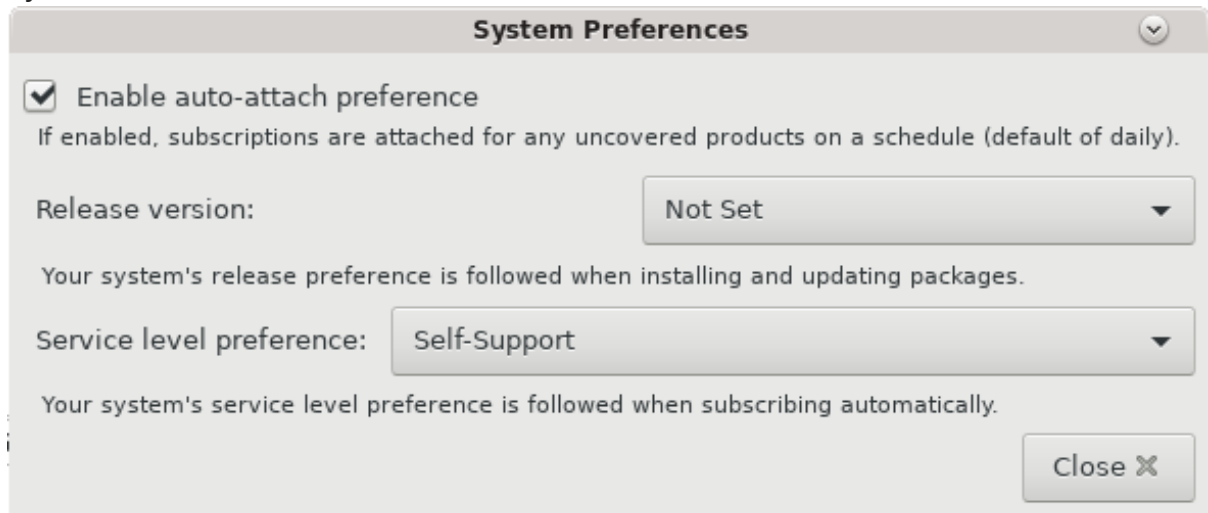
#### 注記

サービスレベルと OS リリースバージョンを選択する場合、使用可能な値は、現在のアカウントとサブスクリプションステータスに基づいています。

1. Subscription Manager GUI を開きます。
2. **System > Preferences** を選択するか、ショートカット **Ctrl+P** を入力します。



3. **System Preferences** ダイアログで、システムに適用する設定を選択します。

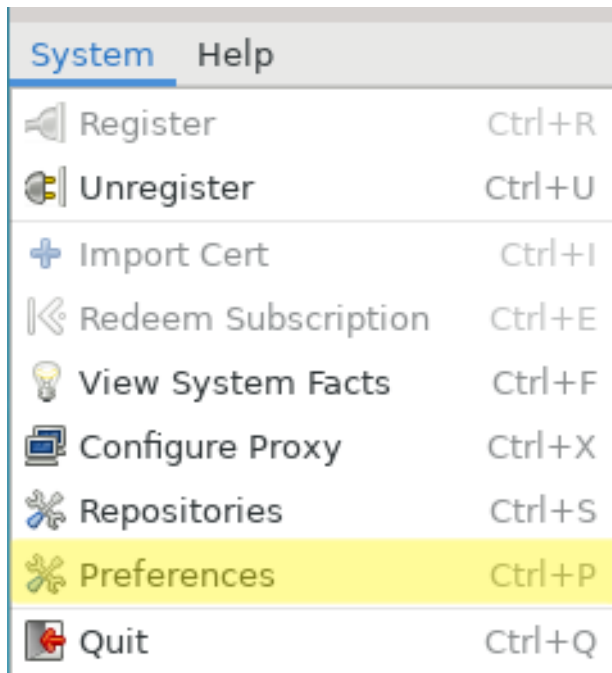


4. **Close** をクリックして設定を保存します。

### 3.1.6. Red Hat Subscription Management GUI を使用して OS バージョン設定を削除する

Red Hat Subscription Management GUI を使用して設定を削除または設定解除できます。

1. Subscription Manager GUI を開きます。
2. **System > Preferences** を選択するか、ショートカット **Ctrl+P** を入力します。



3. **System Preferences** ダイアログで、対応するドロップダウンメニューから **Not Set** を選択して、リリースバージョンまたはサービスレベルの設定を削除します。
4. **Close** をクリックして設定を保存します。

### 3.1.7. コマンドラインでのサービスレベルの設定

登録時にシステムを自動接続すると、そのシステムの優先サービスレベルを選択できます。製品サブスクリプションは、希望するサービスレベルに最適なものに基づいて選択されます。

#### 3.1.7.1. サービスレベルの表示

システムは、複数のサービスレベルを利用できます。使用可能なレベルは、システムまたはシステムにインストールされている製品に対して有効なレベルではない場合があります。サービスレベルはサブスクリプションによって異なります。

**subscription-manager service-level** コマンドを使用して、システムで利用可能なサービスレベルを表示できます。

1. **subscription-manager service-level** コマンドを使用するには、root アクセス権が必要です。
2. **subscription-manager service-level --list** コマンドを入力して、使用可能なサービスレベルを一覧表示します。

```
[root@server ~]# subscription-manager service-level --list
+-----+
      Available Service Levels
+-----+
Standard
None
Premium
Self-Support
```

3. **subscription-manager service-level --show** コマンドを入力して、システムの現在のサービスレベル設定を表示します。



```
[root#server ~]# subscription-manager service-level --show
Current service level: self-support
```

### 3.1.7.2. サービスレベルの変更

登録後、優先サービスレベルをシステムで利用可能な別のレベルに変更できます。

システムのサービスレベルプリファレンスを設定するには、**subscription-manager service-level** コマンドを使用します。アカウントとローカルシステムのデフォルトのサービスレベルを選択できます。アカウント設定とローカルシステム設定は同じである必要はありません。

1. **subscription-manager service-level** コマンドを使用するには、root アクセス権限が必要です。
2. **subscription-manager service-level** コマンドを入力して、使用可能なサービスレベルを一覧表示します。

```
[root@server ~]# subscription-manager service-level --list
+-----+
| Available Service Levels |
+-----+
Standard
None
Premium
Self-Support
```

3. **subscription-manager service-level** コマンドを入力して、使用可能なサービスレベルのいずれかを選択します。このコマンドは、サービスレベルを **self-support** に設定します。

```
[root@server ~]# subscription-manager service-level --set=self-support
Service level set to: self-support
```

4. サービスレベルを確認します。

```
[root#server ~]# subscription-manager service-level --show
Current service level: self-support
```

### 3.1.7.3. サービスレベルによるサブスクリプションの自動割り当て

**subscription-manager attach** コマンドを使用して、サブスクリプションを自動割り当てし、優先サービスレベルを設定できます。



#### 注記

**--auto** および **--auto-attach** コマンドオプションの使用については、**subscription-manager attach** コマンドの man ページエントリを参照してください。

1. **subscription-manager attach** コマンドを使用するには、root アクセス権限が必要です。
2. 登録後にサービスレベルを選択するには、**subscription-manager attach --auto** コマンドを入力し、優先するサービスレベルを選択します。

```
[root#server ~]# subscription-manager attach --auto --servicelevel Premium
```

```
Service level set to: Premium
Installed Product Current Status:
ProductName:         RHEL 6 for Workstations
Status:              Subscribed
```

### 3.1.7.4. 登録時のオペレーティングシステムリリースの設定

**subscription-manager register** コマンドで **--release** オプションを使用して、システムの登録時にリリースバージョンの設定を行うことができます。

1. **subscription-manager register** コマンドを使用するには、root アクセス権限が必要です。
2. システムを登録するときに、システムに自動接続されている選択したサブスクリプションにリリース設定を適用します。

```
[root#server ~]# subscription-manager register --auto-attach --release=6.4 --
username=admin@example.com...
```

リリース設定を設定するときは、**--auto-attach** オプションを使用する必要があります。これは、自動割り当てするサブスクリプションを選択する基準の1つであるためです。



#### 注記

サービスレベルの優先条件を設定するのは異なり、リリースの優先条件は登録時にしか使用できません。あるいは、優先条件として設定します。**attach** コマンドでは指定できません。

### 3.1.8. コマンドラインを使用したオペレーティングシステムのリリース設定の設定

CLI を使用して、OS バージョンの設定を表示、設定、および削除できます。

#### 3.1.8.1. OS 設定の表示

**subscription-manager release --list** コマンドを使用して、システムで利用可能な OS 設定を表示します。

1. **subscription-manager release** コマンドを使用するには、root アクセス権限が必要です。
2. **subscription-manager release --list** コマンドを入力して、システムで利用可能な OS バージョンの設定を表示します。

```
[root#server ~]# subscription-manager release --list
+-----+
      Available Releases
+-----+
7.0
7.1
7.2
7.3
7.4
7.5
7.6
7Server
```

### 3.1.8.2. OS プリファレンスの設定

**subscription-manager release --set** コマンドを使用して、システムの優先 OS バージョンを設定します。

1. **subscription-manager release** コマンドを使用するには、root アクセス権限が必要です。
2. **subscription-manager release --set** コマンドを入力して、プリファレンスを使用可能なリリースバージョンのいずれかに設定します。

```
[root#server ~]# subscription-manager release --set=7.3
Release version set to: 7.3
```

### 3.1.8.3. コマンドラインで OS 設定を削除する

**subscription-manager release --unset** コマンドを使用して、システムの優先 OS バージョンの設定を解除します。

1. **subscription-manager release** コマンドを使用するには、root アクセス権限が必要です。
2. **subscription-manager release --unset** コマンドを入力して、リリースバージョンの設定を解除します。

```
[root#server ~]# subscription-manager release --unset
Release version set to:
```

## 3.1.9. Subscription Manager の通知に応じた自動割り当て

サブスクリプションマネージャー GUI を使用して、サブスクリプションを自動割り当てできます。

1. Subscription Manager UI を開きます。
2. サブスクリプションが期限切れになっているインストール済み製品を選択します。
3. **Auto-attach** をクリックします。

### 3.1.10. システム登録時の自動割り当て

**subscription-manager register** コマンドを使用して、システムをサブスクリプションサービスに登録し、インストール済みの製品サブスクリプションを自動割り当てできます。このアクションは通常、システムを登録するときに実行されます。

1. **subscription-manager** コマンドを使用するには、root アクセス権限が必要です。
2. **subscription-manager register** コマンドを入力して、システムを自動接続します。

```
[root@server1 ~]# subscription-manager register --username admin-example --password
secret --auto-attach
```

### 3.1.11. 登録後の自動割り当て

最初のシステム登録後に、サブスクリプションを自動割り当て用に設定できます。初期登録後の自動接続は、デフォルトのシステム設定に含まれていない追加の製品をインストールする場合に役立ちます。インストール後に自動割り当てすると、正しいサブスクリプションを簡単に割り当てすることができます。

す。

1. **subscription-manager** コマンドを使用するには、root アクセス権限が必要です。
2. **subscription-manager** コマンドを入力します。

```
[root@server1 ~]# subscription-manager attach --auto
```

## 3.2. RED HAT SUBSCRIPTION MANAGEMENT カスタマーポータルの子スクリプションの更新

Red Hat Customer Portal は、サブスクリプションを管理および更新するためのツールを提供します。Red Hat Customer Portal を使用して **My Subscriptions** リンクに移動すると、サブスクリプションを表示および管理できます。My Subscriptions リンクを開くと、Red Hat Subscription Management ページが表示されます。このページの **Overview** タブには、サブスクリプションの概要が表示されます。その他の詳細は、Red Hat Subscription Management ページのリンクとタブから入手できます。

### 3.2.1. 優先サービスレベルサポート

インストール済み製品のサブスクリプション契約には、**サービスレベル**が含まれています。サービスレベルは、システムにインストールされている製品に関連付けられており、サポート要件に応じて製品ごとに異なる場合があります。

Red Hat のサービスレベルは、製品契約で定義されています。 [プロダクションサポートサービス条件](#)でプロダクションサポートレベルの概要を確認できます。

同じ製品であっても、1つのアカウントで複数のレベルのサポートを利用できます。適切なレベルのサポートが利用できるように、システムのサポートレベルを設定できます。たとえば、実稼働システムにはプレミアムレベル1のサポートがある場合がありますが、開発システムには標準サポート (またはセルフサポート) がある場合があります。



#### 注記

デフォルトでは、サブスクリプションとシステムに対して利用可能な最高レベルのサポートが選択されています。

システムを登録すると、優先サービスレベルを割り当てることができます。サブスクリプションがシステムに自動接続され、優先サービスレベルが利用可能な場合、その優先サービスレベルに一致するサブスクリプションが使用されます。



#### 注記

クライアントシステムの登録時に、自動割り当てまたは設定の更新によって、最初にサービスレベルの設定をクライアントシステムでローカルに設定する必要があります。このアクションは、CLI を介して実行されます。例は、Premium サービスレベルを示しています。

```
[root@server ~]# subscription-manager attach --auto --servicelevel Premium
```

システムのサービスレベル設定を設定すると、その設定はカスタマーポータルでの Red Hat Subscription Management を通じて表示および編集できます。

システムの初期設定を実行した後、[Red Hat Subscription Management カスタマーポータル](#) のシステムの詳細ページでサービスレベルの設定を確認できます。

### 3.2.2. オペレーティングシステムのリリース設定の表示

多くの運用 IT 環境は、特定のバージョンのソフトウェアに対して認定を受ける必要があるため、認定への準拠を維持できるように、更新プログラムの OS リリースバージョンを設定することが重要です。これにより、システムで許可される更新またはパッチを制御できます。

リリースバージョンの優先条件を設定すると、最新バージョンのリポジトリを自動的に使用するのではなく、システムのアクセスがそのオペレーティングシステムのバージョンに関連付けられたコンテンツリポジトリに制限されます。

たとえば、優先するオペレーティングシステムのバージョンが 7.5 の場合、7.5 のコンテンツリポジトリは、システムにインストールされているすべての製品とアタッチされているサブスクリプションに対して優先されます。この設定は、他のコンテンツリポジトリが利用可能になった場合でも維持されます。

その優先 OS バージョンのパッケージ、更新、およびエラータのみがシステムに使用されます。

カスタマーポータルの Red Hat Subscription Management ツール、サブスクリプションマネージャー GUI、または **subscription-manager** CLI を使用して、リリースバージョンの設定を指定できます。ローカルシステムでリリース設定を設定したら、Red Hat Subscription Management カスタマーポータルでその設定を表示できます。

### 3.2.3. サブスクリプションの自動アタッチ

サブスクリプションサービスは、システムに接続されているサブスクリプションを監視し、有効期限が近づいていることを追跡できます。サブスクリプションの有効期限が切れてから 24 時間以内に、サブスクリプション管理はシステムを新しい一致するサブスクリプションに自動的に再接続し、サブスクリプションステータスが有効なままになるようにします。

自動割り当ては、アクティブで互換性のあるサブスクリプションが利用可能である限り、システムの製品が期限切れになるのを防ぎます。

### 3.2.4. システムでの自動接続の有効化

自動割り当ては、システムがサブスクリプションステータスを維持できるように、デフォルトで有効になっています。システムの詳細ページで **無効/有効** を切り替えることで、自動接続を無効にしたり、再度有効にしたりできます。

図3.2 自動割り当ての切り替え

Details
Subscriptions
Errata
Enabled Modules

---

### Basic Information

Name	localhost.localdomain	
Type	Virtual System	
UUID	d6c764ed-bb3a-4c55-a4eb-3093d644a1d4	

---

### Subscriptions

Subscription Management	<span style="color: green; font-weight: bold;">●</span> Properly Subscribed
	All installed products are covered by attached subscriptions. Updates can be received through April 09, 2020 00:00.
Subscriptions Attached	1
Auto-Attach	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> <span style="margin-right: 10px;">Enabled</span> <span style="font-size: 0.8em;">▼</span> </div>
Operating System Release Preference	Not Set

### 3.2.5. サブスクリプションと過剰割り当て

カスタマーポータルから Red Hat Subscription Management を使用すると、サブスクリプション、サブスクリプション資格、および購入に割り当てられたサブスクリプションに関する情報を表示できます。サブスクリプションとその割り当てを管理するのは、ユーザーの責任です。



#### 警告

多くの場合、業界標準に準拠するには、IT インフラストラクチャーにインストールされるすべてのソフトウェアに適切なライセンスが必要です。ライセンスされているよりも多くのサブスクリプションが使用されている場合、この状況はサービス契約に違反する可能性があり、インストールが準拠していない可能性があります。

### 3.2.6. サブスクリプションの使用状況を表示する

サブスクリプションの使用状況は、Red Hat Customer Portal から確認できます。

1. [Red Hat Customer Portal](#) でアカウントにログインします。
2. **My Subscriptions** をクリックすると、Red Hat Subscription Management ページに移動します。
3. **Subscription Utilization** をクリックします。すべての製品とサブスクリプションの概要が表示されます。
4. 特定の製品名をクリックして、サブスクリプションのステータスと資格の使用状況に関するさらに詳しい情報を表示します。

### 3.2.7. システム使用率の表示

オーバーサブスクリプションの自動修正はありません。Red Hat は、オーバーサブスクリプションを修正するためにどのシステムまたはサブスクリプションを変更する必要があるかについてのガイダンスを提供します。

Red Hat Customer Portal のサブスクリプションのシステム使用率を表示できます。

1. [Red Hat Customer Portal](#) でアカウントにログインします。
2. **My Subscriptions** をクリックすると、Red Hat Subscription Management ページに移動します。
3. **Systems** をクリックすると、アカウントログインから表示できるすべてのシステムが一覧表示されます。
4. **Name** リストでシステム名をクリックすると、そのシステムとそのサブスクリプションの使用状況に関する詳細が表示されます。

システムの名前をクリックすると、その詳細ページが開き、そのサブスクリプションを変更できます。



#### 注記

**Systems** ページで情報を表示するには、適切な権限が必要です。アクセスできるシステムのみを表示できます。これには、アカウントに関連付けられているすべてのシステムが含まれているとは限りません。

## 第4章 エラータ通知の管理

### 4.1. 登録済みシステムの RED HAT SUBSCRIPTION MANAGEMENT エラータ通知

エラータ通知は、バグ修正またはソフトウェア更新がある場合に発行されます。Red Hat ポータルプロフィールを通じて、システムレベルまたはサブスクリプションレベルで通知を選択できます。推奨される通知は、アカウントのすべてのシステムに対するもので、システムレベルの通知です。

システムレベルでは、インストール済み製品のサブスクリプションが割り当てられているすべての登録済みシステムのユーザーアカウントにエラータ通知メールが送信されます。製品のサブスクリプションが割り当てられているが、その製品がインストールされていないシステムは、通知を受け取りません。

サブスクリプションレベルの通知では、アカウントに登録されているサブスクリプションについてのみ通知を受け取ります。登録されているすべてのシステムがチェックされても、個々のシステムはエラータ通知にリストされません。

### 4.2. エラータ通知の設定

Red Hat Customer Portal のアカウント詳細からエラータ通知を設定できます。詳細情報では、ログインしたアカウントの連絡先情報を設定します。

1. <https://access.redhat.com/> で Red Hat アカウントにログインします。
2. カスタマーポータルの右上隅にあるアカウント名をクリックして、ログインしているユーザーのアカウント情報を展開します。
3. **Account Details** をクリックします。
4. **エラータの通知** をクリックします。
5. **RED HAT SUBSCRIPTION MANAGEMENT** で、選択を行います。システム通知が推奨設定であることを覚えておいてください。
6. **保存** をクリックします。

### 4.3. ローカルシステム用の RED HAT SUBSCRIPTION MANAGEMENT パッケージプロファイル

**package profile** は、サブスクリプションステータスに関係なく、システムにインストールされているパッケージのリストです。システムが登録されると、**rhsmcertd** サービスはシステムをポーリングして、インストールされている製品を判別します。その情報はサブスクリプションサービスに転送されます。パッケージプロファイルは、更新、システム通知、およびエラータ通知の管理に不可欠な要素です。

Red Hat Subscription Management は、インストール済みパッケージのローカルリストを維持して、システムのサブスクリプションステータスを追跡します。パッケージプロファイルには、製品名、ID、バージョンなど、インストールされている各製品に関する一般的な情報が含まれています。

現在インストールされているパッケージに関するすべての情報は、**rhsmcertd** サービスによって収集され、ユーザーアカウント情報とともに登録サブスクリプションサービスに送信されます。

プロファイルパッケージとサブスクリプションの情報を表示する方法については、[サブスクリプションの使用状況](#) を参照してください。



## 付録A 更新履歴

表A.1 更新履歴

リビジョン	日付	changes Made	作業者
改訂 1.4-0	2019 年 6 月	RHEL 7 用に更新されたコンテンツ。 Subscription Asset Manager (SAM) および Red Hat Network (RHN) の情報が削除されました。	Spank McCoy
改訂 1.3-7	2014 年 4 月 13 日	インスタンスベースおよび仮想セットアップのセクションを更新しました。	Ella Deon Ballard
改訂 1.3-4	2013 年 10 月 1 日	SAM 1.3 リリースの新しいコンテンツおよび再編成	Deon Ballard